

— 告 告 —



篠田 瞭太 (しのだ りょうた)
金沢工業大学大学院工学研究科
機械工学専攻
博士前期課程一年
岐阜県立岐阜北高等学校出身

洞察力と説明能力を鍛えた 豊富な学会発表と読書量。

相手の目をそらさず、中低音の通る声で研究対象のソナーと水中音響について語る篠田さん。「時間反転波」のような専門用語に、文系脳のわたしが「？」とわずかに眉を寄せるや、すぐにかみ砕いた補足説明をしてくれる。その洞察力と説明能力の高さに吐胸をつかれ、どこでこんな力が備わったのか俄然、興味がわいた。

篠田さんは小さな頃からロボットの興味を持ち、ロボティクス学科のあるKITを選んだ。ただ、高校では公式を暗記して問題を解く受験勉強になじめず、物理や数学は苦手科目だった。それが、一年次の基礎力学の授業で、太田和彦教授から公式が導き出された背景や実社会のどんな所で役立っているかを学び、一転、面白くなったそう

だ。同時に、「相手に分かってもらうためには、自分が広く深く理解していないと駄目だと気づきまじ」と振り返る。

太田教授の専門分野とする水中音響や信号処理などがロボットとも深く関係する縁もあり、篠田さんは太田研究室を選んだ。そして、四年次で水中ロボットを追尾するための水上ロボットの製作、大学院ではソナーから発する音波を利用して水中にある物体を見つけるシステムに取り組んだ。「海底や海面の状況だけでなく、水温や塩分濃度の違いでも波形が大きく変わるため、正確な探知が本場に難しいんです」。試行錯誤さえ楽しむように時折こぼれる柔らかな笑みが、たくましく映る。

そんな篠田さんは四年次、一年間に六件の学会発表をした努力が評価され、日本音響学会北陸支部の学生優秀論文発表賞に輝いた。今年三月も日本音響学会・春季研

究発表会(オンライン)で登壇した。「レジメの準備は大変ですし、会場で厳しい意見にへこむこともありませんが、それ以上にもらえる研究のヒントが一番のやりがいです。それに場数を踏ませていただき、分かりやすく伝える技術が鍛えられたことを実感しています」

これで冒頭、わたしが抱いた疑問が解けた。もう一つ分かったのは、ジャンルを問わない豊富な読書量で、きっかけは中学生時代、推理小説に夢中の篠田さんに「このままだと発想が偏るぞ」と、両親がかけたひと言だったという。

就職先は自身の研究が活かせる大手電機メーカーを選んだ。「例えば、海中から発電所やコンピュータへ侵入する者を監視するセキュリティシステムができれば」。夢を現実にする日が待ち遠しい。

金沢工業大学

石川県野々市市扇が丘七十一
電話番号 〇七六二四八二〇〇

KIT
レポート⑩
文・杉村裕之